



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 22 号

2021 年 8 月 26 日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

片葩小わくわく算数教室 最終日(26日)

8月26日、「わくわく算数教室」の最終日でした。参加して下さったSPさん、本当にありがとうございました。算数教室の様子を毎日見させていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。今回愛知県に緊急事態宣言が発出されるため、当初の日程を急遽変更し、27日・30日・31日の算数教室は残念ながら中止となってしまいました。後半の3日間に参加をして下さるSPさんもたくさんいたので、大変残念です。今回参加できなかったSPさん、冬休みも「わくわく算数教室」を開催する予定です。さらに、「SPのみなさんのやる気がすごい!」ということで、10月ごろに「SP研修会」を開催できないかと、現在企画中です。もちろん、安心・安全が第一ですので、コロナウイルスの感染状況を見ての開催にはなりますが、なんとかみなさんに一つでも多く学びの機会を提供したい、みなさんの将来につながるボランティア活動にしたいと思っています。今回参加できたSPさん、残念ながら参加できなかったSPさん、ウィークリーSPさん、シニアSPさん、ぜひ参加していただけたらと思います。

さて、あっという間に最終日が来てしまいました。子どもたちからも「明日も来たかった」「2回しか来られなかった、もっと来たかった」などの声が挙がっていました。私ももっともっと、わくわく算数教室を見たかったです。SPさんと子どもたちの笑顔、楽しそうな声、聞きたかったです。すでに冬休みのわくわく算数教室が待ち遠しいです。今年はとくに鉛筆の音が「カリカリ」と響く、子どもたちがとても集中して勉強している姿が印象的な「夏のわくわく算数教室」でした。これはSPさんの丁寧な指導・支援の賜物だと思います。どのSPさんも穏やかで、上手に子どもたちと接してくれていました。



今日は片葩小ウィークリーSPの加藤SPが全体のあいさつをしました。「自分では反省点ばかりでした」と言っていたのですが、やはり教育実習を越えたSPさんは違います。「もっと聞きやすい声、伝わりやすい声、イントネーションに気を付けていきたいです」と終わった後の控室で話していました。ちょっと落ち込みながらも、すぐに次への切り替えができる加藤SP、さすがです。向上心の塊です。

同じく加藤SP。問題を読み上げて、口頭で答えさせていました。子どもたちが生き生きと、楽しそうに答えていました。ピシッと拳がった手から、楽しい気持ちや勉強への意欲がビシビシ伝わってきます。勉強にはいろいろな方法があります。その子その子に合った、学習方法があります。加藤SP、どんどん指導の引き出しが増えていきます。





写真から子どもたちの充実度が伝わってきます。SPさんの笑顔、SPさんの真剣な姿が、子どもたちの“楽しい”をつくります。これが「わくわく算数教室」です。



至学館大学の加藤雅之先生も見に来てくださいました。「これからも学生をぜひ参加させたい」と仰ってくださいました。参加した学生さんにも一人一人声をかけて、たくさん様子を見ていってくださいました。この5日間、たくさんの方が参観に来てくださり、「子どもたちの笑顔が本当に素晴らしい」「SPさんたちの真剣な姿が素晴らしい」と連日絶賛の嵐でした。



算数教室が終わった後の様子です。どの SP さんも、始まった時よりも子どもたちとの距離が縮まっています。リラックスしています。それだけこの90分間で“濃い時間”を過ごしているのでしょう。あちらこちらで素敵な光景が広がっています。子どもたちのこの笑顔が、SP さんたちに教職の魅力を教えてくれています。まさに Win-Win の活動です。

東浦中学校 わくわく数学教室

当初26日、27日の2日間開催予定だった東浦中学校での「わくわく数学教室」も、今年は26日のみの開催となってしまいました。参加して下さったSPさん、ありがとうございました。

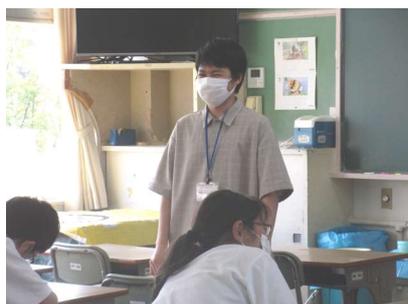
片葩小の「わくわく算数教室」にも参加して下さったSPさんばかりでした。小学生と中学生、両方の子どもたちと関わってみて、どうでしたか？違いを感じられたSPさん、きっとたくさんいたと思います。生徒の方から話しかけてくれる回数は、小学生よりも格段に少ないと思います。しかし、数学教室が終わったあと、生徒のみなさんの感想を読むと「楽しかった」「SPさんから声をかけてくれたので聞きやすかった」という声がたくさんありました。SPさんも緊張したかと思いますが、どのSPさんも自分から、声をかける姿がありました。その勇気に救われた生徒さんもいたのではないかと思います。数学教室が始まって30分経った頃には、あちらこちらでSPさんたちが真剣に説明している姿と、それを理解しようと一生懸命説明を聞く生徒さんの姿が見られました。



←日本語があまり得意でない生徒さんもいました。小島SP、90分間しっかりその生徒さんの前について、数学の勉強をサポートしていました。2人の共通言語である英語を時々交えながら、1学期の復習をしていました。小島SPのコミュニケーション力も抜群でした。思わず「ビデオを持ってくればよかったな」と思ったほど、素敵な様子でした。

「わくわく算数教室」出身の生徒さんも何人もいました。「SPさんに教えてもらおうと思って、この宿題を持ってきた。」という生徒さんも。リピーターが多いのも「わくわく算数・数学教室」の特徴です。SPさんは絶対に教えてくれる、という信頼が、子どもたちの中にはあるのでしょうか。代々のSPさんが築いてきた信頼関係、ばっちり繋がっていますよ！

→



←わくわく数学教室でも、SPさんの笑顔は健在です。この笑顔は、本当に教室の雰囲気ガラッと良くしてくれています。

東浦中学校の田川校長先生も「SPさんに一言お礼を・・・」と、数学教室終了後にお話をしてくださいました。現場の、しかも校長先生からお話をうかがえると、励みになりますよね。数学教室、「楽しかったな」「しんどかったな」と思う瞬間もあったかもしれませんが、それも学びの一つだと思います。ぜひまた参加してもらえたらと思います。

